



JREU TOKYO

業務部速報



2022.12.14 No.021
発行: J R 東労組東京地本 業務部

東地申第5号 「埼京線の乗務員基地再編について」に関する解明申し入れ 団体交渉を行いましたその①

1. 大宮運転区、大宮車掌区が担当する埼京線・川越線の業務の一部を首都圏本部に移管し、埼京運輸区を設立するメリットを具体的に示すこと。

会社回答:安全・安定輸送のさらなるレベルアップを図るとともに、効率的な業務執行体制の実現が出来ると考えている。

(組合)大崎には車両基地がないが、メリットはどこにあるのか。

(会社)りんかい線との接続があり、南側の安全・安定輸送を担っていく。北口は大宮、南口は大崎と役割分担をして埼京線の安定性輸送に寄与できる。行路作成においても、ロング便乗を削減し、効率のよい行路作成が出来る。

(組合)大宮運転区・車掌区で目指す姿の説明会では何が話されたのか。

(会社)大宮支社であるが、大崎の将来展望では、湘南新宿ライン、相鉄線直通、空港アクセス線など将来的可能性を秘めた職場であり重要な職場であると説明した。

(組合)デメリットはあるのか。

(会社)デメリットはない。

(組合)職場では埼京運輸区は必要ないとの声も出ているがどうか。

(会社)大宮車掌区、大宮運転区を一つの職場にすると職場の規模が大きすぎる。大崎に埼京線の乗務員基地を作るメリットを勘案して設置する。

(組合)安全・安定輸送のレベルアップについて考えていることはあるか。

(会社)車掌と運転士が連携した訓練を行ったり、駅との連携も考えている。

(組合)運転士・車掌の連携した訓練とは？

(会社)SIM で顔を見合わせながら訓練する。

2. 埼京運輸区が担当する業務内容及び乗務範囲を具体的に示すこと。

会社回答:業務内容等については、決まり次第周知していく考えである。

(組合)乗務線区は埼京線・川越線で良いか。

(会社)乗務線区は現行、大宮運転区、車掌区の乗務されている埼京線、川越線(大崎～川越間)で変わらない。

(組合)業務の偏りがないように行路作成していくのか。

(会社)埼京運輸区と大宮の職場で列車本数が違うので5対5ではないが、行路内容は社員が働きやすいように努力する。

(組合)回送・臨時担当(波動)についてはどうか。

(会社)回送・臨時担当(波動)は、1区所にまとめる考えである。埼京運輸区がどこまで波動を持つか決まっていない。会社の基本的なスタンスとして、波動は定期列車で乗務をしている乗務員区が担当した方が良いと考えている。

(組合)新人養成はあるのか。

(会社)新人養成については現時点では示すものはない。

(組合)駅業務との連携はあるのか？

(会社)駅業務との連携は現段階ではない。出来るところは協力する考えである。その他時間も現在、具体的にはない。

(組合)運転士と車掌の兼務はあるのか。

(会社)可能性は否定しない。

(組合)基本的な泊地は残すのか。

(会社)埼京運輸区だから南古谷に泊まらないではなく、今の車掌区、大宮運転区の泊地を残していく。

(組合)指導担当や事務も配置で良いか。

(会社)その通りだ。